

※情報共有メールは、プラチナサポートの特典となっております。プラチナサポート加盟店以外への共有、流用等は禁止されております。

※配信当時の内容のため、現状の内容と異なる場合もございます。予めご了承ください。

プラチナサポート情報共有メール

No.	703	配信日	2026/8/3	ジャンル	商品知識
テーマ	真珠(パール)				

みなさんは、なぜ真珠が冠婚葬祭の定番なのかご存じですか？

その理由とともに、お客様のいつか使うかもを納得の買取へと変えるトーク例を共有します。

1. 真珠（パール）とは

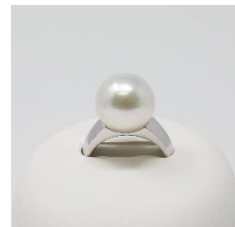
- ・冠婚葬祭の定番となっている宝石
19 世紀、イギリスのヴィクトリア女王が夫を亡くした際、喪服に合わせて身につけたのが「真珠」でした。これが世界中のマナーとして定着したと言われています。
- ・真珠はアコヤ貝などの生きた貝の体内で作られる「有機質宝石」です。
- ・真珠の硬度は、人間の爪と同程度で非常に低く、キズがつきやすい宝石です。酸や熱、汗、化粧品などに非常に弱いというデリケートな特徴を持っています。



2. 真珠の査定において重要なポイント

① テリ（光沢）とマキ（真珠層の厚さ）

真珠の価値を決める上で、最も重要視されるのが「テリ（光沢）」です。表面に自分の顔が鏡のようにくっきりと映り込むような、内側から深みのある輝きを放つものが高く評価されます。このテリを生み出すのが「マキ（真珠層の厚さ）」であり、マキが厚いほど深みのある美しい輝きになり、耐久性も高くなります。白くて丸ければ高いというわけではなく、このテリが強いかが査定価格を左右する最大のポイントです。



② キズ（エクボ）と形

天然の貝が自然の中で作り出すため、表面にはエクボと呼ばれるへこみや突起などの天然のキズができるのが一般的です。これらが少なく、表面がツルツルと滑らかなものほど高価になります。また、形は真円に近いほど評価が高くなります。

3. 意外と知らない知識を接客に活かす

真珠は「生きている宝石」とも呼ばれる有機物です。そのため、経年劣化を避けるのが非常に難しいという大きな特徴があります。汗や皮脂をきちんと拭き取らずに保管してしまうと、表面が溶けて白く濁ったり、黄ばんだりして美しい光沢が失われてしまいます。そして、一度失われたテリは、磨いても元に戻すことができません。

接客に活用できるトーク例

「真珠は『生きている宝石』とも呼ばれ、宝石の中でもトップクラスにデリケートな性質を持っております。大切に保管されていても、湿気や過去に付着した見えない汗・お化粧品の影響で、少しずつ表面の美しい光沢が失われ、黄ばみが出てきてしまいます。

ですので、いざ使おうと思って箱を開けたら、白く曇ってしまっていた…ということも少なくありません。

もし今後、お使いになる具体的なご予定がないのであれば、美しい輝きが残っている今が一番の売り時と言えます。」